

実習日：第 I 期 平成 28 年 7 月 13 日

実習先：大分三愛メディカルセンター

大学名・学年：九州保健福祉大学 薬学部 5 年

氏名：高野 幸恵

実習を通して学んだこと

まず最初にカンファレンスに参加させて頂き、患者様の状態を知る良い機会になると感じました。また、他の医療スタッフと、情報を共有できるよい機会になるので、しっかり聞き取らないといけないと感じました。そのためには、専門用語を理解したいと感じました。

麻薬の取り扱いについては、譲渡・譲受の際には、譲渡証・譲受証が必要でありロット番号の確認と、アンプルの破損がないかも確認する必要があることを学びました。アンプルを破損した際には、事故の届け出が必要であることを学びました。調剤済み麻薬の廃棄の時には、立ち合いのもと廃棄した後の 30 日後までに届けでなければいけないことを学びました。

服薬指導の際には、痛みが強くて苦しい患者様へ薬の説明をただするのではなくて、予め電子カルテをみて、他の医療スタッフと患者様の状況を把握した上で、患者様の所へ出向き、服薬指導してもよい状況であるか確認することも重要であることを学びました。

フェントステープの服薬指導では、患者様に触れることでぬくもりが伝わり、安心感を持ってもらえるということを学びました。これから患者様と接する時、私もそのような接し方ができるようになりたいと感じました。

緩和ケアは、治療困難だから行うものというイメージがあったのですが、今回の実習を通して、そうではなくて積極的な治療を行わなくても痛みなどの症状を取り除き、患者様のやりたいことを少しでも叶えられるようにサポートしていくケアであることを知りました。

大分ゆふみ病院では、時間がゆっくり感じられ、患者様がターミナルケアを充実した環境で過ごせるよう配慮されていて、イベントを定期的で開催していることを知りました。私もこれから、患者様に心から寄り添い、患者様が最期をどのように過ごしたいか考え、サポートできていたらと思いました。